

令和5年第2回定例会での公明党代表質問

小さな声を聴く力！

あなたのためには！
働きます！

持続可能な財政基盤の構築に向けて

新公会計制度を導入し6年が経った。制度を活用した、飽くなき事業見直しが必要だ。更に外部評価制度を導入し、第三者の意見を活かす取り組みも必要だ。区の見解を問う。

【答弁】今後は制度を活用し自治体間比較が可能となるよう働きかけをして、事業見直しへ繋げていく。
更に外部の意見や専門的な知見を活かした指標を設定し、適正な事業評価に努める。

図書館改革で住民サービスの向上について

経堂・下馬・烏山図書館の実態を見れば、民間活力導入の是非の結論は出ている。積極的な民間委託を第3次図書館ビジョンで明確にすべき。
今後リニューアルを予定している梅丘図書館では、魅力ある図書館実現のため、建設前に運営事業者を選定し、意向を組み入れ、区民目線の図書館運営に応えるべき。

【答弁】第3次図書館ビジョン策定においては、今年度中に方向性を示す、また梅丘図書館の整備についても今年度中には、民間活用も含めた運営体制を明らかにし必要な調整等を行う。

障がい者の就労及び定着支援について

障がい者の希望に寄り添った就労先の開拓やマッチングへ機動的に取り組む就労定着支援が求められている。
区としてジョブコーチの育成と活用を関連付けた体制の構築が求められる。さらに、18歳以上の中等度難聴者に対する補聴器購入費用の助成制度の導入を求めてきた。併せて65歳以上の高齢者への対象拡大をすべき。

【答弁】ジョブコーチの活用も含め、本人寄り添った支援を提供できるしくみを検討する。また18歳以上の中等度難聴者への補聴器支援については、高齢者も含めて来年度からの実施に向け具体的な検討を進める。

防災力強化について

今年は関東大震災から100年の節目。区民の防災力強化のために、100年を契機とした区の取り組みが重要だ。自力で避難ができない要支援者の個別避難計画は、実効性ある計画となるよう福祉の専門職活用と、具体的な支え手の創出に向けた地域づくりが必要だ。区長の答弁を求める。**【答弁】**様々な防災体験を通じて、区民の防災意識向上に努める。また個別避難計画の作成については福祉の専門職を活用したフォローと支え手の創出に向けた地域づくりを関係部に検討を急ぐように指示。

物価高騰対策について

物価高騰対策で地方創生臨時交付金を活用するとしながら、商店街の加盟・非加盟により「せたがやPay」のプレミアム部分の還元率に差を付けるべきではない。
物価や資材高騰などで苦しむ個店への支援策として売上に対し、5%キャッシュバックを再実施すべき。更に、来年度以降の学校給食費完全無償化の継続は、行財政改革を断行し財源を確保するなど、来年度以降も継続して実施すべき。

【答弁】実施主体の商店街振興組合連合会と検討する。経済状況や国、都の施策、物価・賃金の動向、区の財源確保の状況を踏まえて判断する。

教育環境の計画的な整備について

不登校特例校分教室の拡充について、学校施設に限らず、教育部門外の所管と連携し公共施設を活用し分教室拡充を早急に行うべき。
学校改築については、確実に整備計画を推進することが求められる。姉妹都市交流については海外派遣事業を通して、より多くの児童、生徒が経験できるよう新たな都市との交流を着実に進めるべき。

【答弁】不登校特例校分教室の拡充は、関係所管と連携し早急に検討。学校改築は改築の基準や方針を整理し、円滑な改築を推進する。姉妹都市交流については、今後文化・国際課等との連携を図りながら派遣の在り方について検討する。